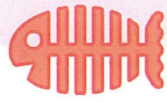


セ

タガヤ



SETAGAYA VOLUNTEER NETWORK

世田谷発! ボランティア生活発見マガジン
<http://www.otagaisama.or.jp/>

2017.10 No.162

【災害特集号】

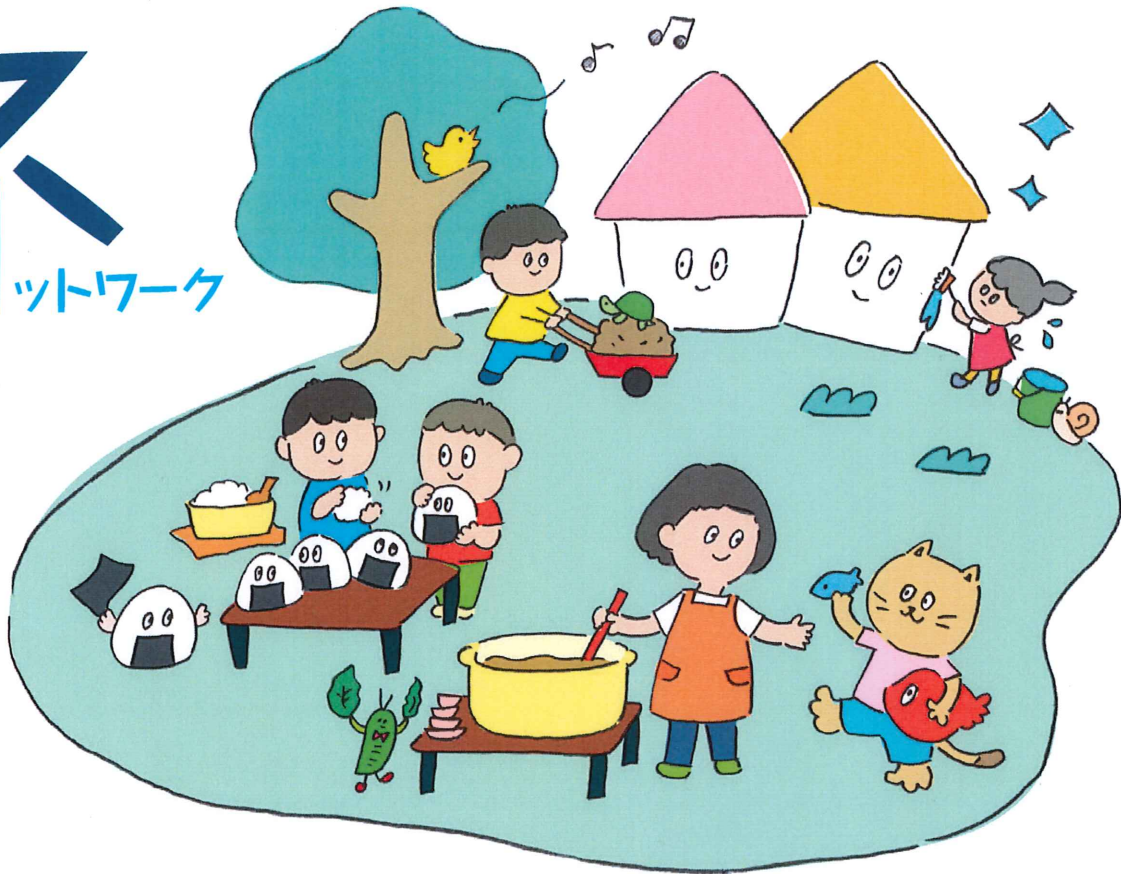
今月のトピック

●特集

ランティア

いつか、その時のために 「災害ボランティア」をつなぐしくみ

ットワーク



イラストレーション●いしやま暁子
世田谷区在住。
イラストとデザインの仕事と、ときどき図
工系のワークショップを企画しています。
<http://chovon.com>

●わたしの世田谷
私の住んでいるところは森の中のように
風が通り、虫の声が聞こえ、和みます。
来年もセミが出てこられる土地がたくさ
ん残っていることを願っています。

特

集

いつかくる、その時のために

～「災害ボランティア」をつなぐしくみ～



せたがや災害ボランティアセンターでは、災害ボランティアの「マッチングコーディネーター養成講座」を開催し、円滑に支援活動が行われるようにするための「調整役」を育成しています。現在の活動状況の特集しました。

支援をつなぐ「調整役」

近年、たびたび大きな災害が発生し、各地で「災害ボランティアセンター」が開設される機会が増えています。被災地では1日1000人を超えるボランティアが駆け付けることもありました。集まった人たちに具体的な指示を出す「調整役」がおらず、支援が十分に行き渡らないことがありました。支援を必要とする人のもとへ、スムーズにボランティアを調整することが課題となっており、世田谷では、以下のようなしくみを考えています。

地域の拠点「サテライト」

災害発生時、せたがや災害ボランティアセンターでは、「支援を必要とする人」と「災害ボランティアをつなぐ活動の拠点として、区内の5カ所の大学に「マッチングセンター」を開設します。さらに避難所となる91か所の小中学校などに、避

難所とは別に、「サテライト」と呼ぶ地域の拠点を設置します。

「サテライト」は避難所や地区を支援するためのボランティアの活動拠点となり、支援の要望（ニーズ）を集め、その要望に応じて一般ボランティアを派遣します。避難所や在宅避難者は、ボランティアによる支援を「サテライト」に依頼することができます。

全国から集まるボランティアは、まず「マッチングセンター」で登録を済ませます。その後、各「サテライト」へ派遣され、支援を必要とする避難所や被災者宅で活動します。

◆ 支援を求めたい場合…

関係機関と連携し、「サテライト」で、避難所や在宅避難者の支援の要望（ニーズ）を収集します。例「避難所の物資の仕分けの人手がほしい」「自宅の片づけを手伝ってほしい」など。

災害ボランティア マッチング (サテライト方式)

せたがや
災害ボランティア
センター本部

- * ボランティア活動に関する
情報提供
- * マッチングセンターとの
連携・情報共有
- * 区、社協、町会等との協議 等

- * ボランティア受付
- * オリエンテーション
- * 各サテライト(地域拠点)へ
ボランティアを送り出し

マッチング
センター



1,000 ~
2,000 人

50 ~ 100 人のボランティア

支所



まちづくり
センター

ニーズ

ニーズ

サテライト

ボランティア

- * ボランティアを避難所支援と
自宅支援・地域支援に振り分け
送り出し

避難所

- 物資の仕分け・
- 炊き出し・
- 避難所生活の支援



ニーズ

(町会等の協力)



在宅避難者

- 片付け・
- 日常生活の支援

地域

- 物資配給・片付け



◆ **ボランティアの動き**

- ① 「マッチングセンター」で登録をし、派遣先の「サテライト」へ振り分けられ、移動します。
- ② 派遣先の「サテライト」で、具体的な支援活動が決まります。
- ③ 避難所や被災者宅にて支援活動を行います。

◆ **「サテライト」の役割**

- ① 避難所・地区内での支援活動の要望を集め、ボランティアの必要人数を「マッチングセンター」に連絡します。
- ② 「マッチングセンター」から送り出されたボランティアを、避難所支援や被災者宅の支援活動につなぎます。

◆ **「マッチングセンター」の役割**

各地から駆け付ける災害ボランティアを受け付けて、各「サテライト」からの要請に基づき、必要な人数を振り分け、送り出します。



コーディネーター役がボランティアの受付を体験する。



コーディネーター養成講座での模擬訓練。過去の修了生が訓練をサポートする。

災害時のボランティア受け入れ

2017年2月に改定された『世田谷区地域防災計画』には、「災害時ボランティア受け入れ整備事業」の取り組みが記載されました。実施内容としては、全国から駆けつけるボランティアと避難所や被災者からの要望（ニーズ）をマッチングする「コーディネーター（調整役）」の養成と、区民や避難所の運営組織等に対する理解促進の2つがあります。今年4月より世田谷ボランティア協会が受託し、実施することとなりました。

「調整役」を育成する

6月10日、昭和女子大学にて「災害ボランティアマッチングコーディネーター養成講座（基礎編）」を開催しました。昭和女子大学コミュニティサービスラーニングセンターの協力を得て、60名の学生が参加しました。また、ホームページ

ジや地域の掲示板、町会・自治会の掲示板などで広報し、たくさんの方々の見学、裏方ボランティアも含め総勢150名と、大盛況でした。

講座では世田谷区の災害対策やマッチングシステムについての講話、そしてコーディネーター役と災害ボランティア役に分かれての模擬訓練を行います。この模擬訓練では災害ボランティアをどのように受け入れるのか、受付や誘導、注意事項の説明（オリエンテーション）など、コーディネーター（調整役）が行う業務を知ってもらうための訓練になります。

受講者の声

*災害ボランティアなどの経験は全くありませんが、この講習を受けて災害に対する意識が大きく変わりました。（40代）

*最初は何も分からなかったけれど、説明や段階を踏むにつれて少しずつ分かるようになった。災害が起こる前に養成講座に参加できて良かったです。(大学生)

*昨年も参加し、2回目となると理解の深まりも早いと感じました。本日に災害が起きた時にコーディネーターの存在は大きいと思いました。(大学生)

*ボランティアを受け入れる体制がすっかりできていないといけないと思った。実際にコーディネーター役をやってみて、コーディネーターがしっかりといていないとボランティアもあたふたしてしまうだろうと思った。(大学生)

*避難所運営本部に関わっているので、ボランティアとの連携が気になっていました。今後も研修に参加して、町会役員などに周知したいと思います。(60代)

*災害時に被災者とボランティアを結ぶ役割の重要性をよく理解できた。必要な人に必要な支援を届けることが重要だと思っていたが、仕組みがすっかり確立されていて少し安心した。(50代)

マッチングコーディネーター養成講座 予定

開催日	開催場所	募集人数 (予定)
2017年10月14日(土)	上祖師谷まちづくりセンター	30名
2017年12月2日(土)	上馬防災塾	80名
2018年1月13日(土)	日本女子体育大学	80名
2018年2月17日(土)	上北沢まちづくりセンター	30名
2018年2月24日(土)	日本体育大学	80名

2015年からこれまで5回、基礎講座を実施しています。9月16日に実施した国士舘大学では、当初の定員を上回る140名の参加がありました。大学のほか、地域ごとの小規模な講座も予定しています。また、今後は「スキルアップ講座」「専修講座」と段階的に開催する予定です。

5カ所の「マッチングセンター」と91カ所の「サテライト」を運営するために、あわせて約1500名のコーディネーターの育成を目標としています。基礎講座はどなたでも参加できますので、お気軽にお申し込み下さい。

世田谷区・(福)世田谷ボランティア協会 主催

**せたがや災害ボランティアセンター
マッチングコーディネーター
養成講座**

受講者募集

マッチングコーディネーターとは、災害時に被災者と災害ボランティアのニーズをつなぎ、より良く支援活動が行われるように調整するスタッフのことです。養成講座では、このコーディネーターが災害時にどのような役割を持つかを学習します。

開催日 2017年9月16日(土)
13:30~16:30[13時受付開始]

会場 国士舘大学
34号館B棟3階303教室

対象 世田谷区在学・在住・在勤の方
参加費 無料 定員 約80名

講座修了者には修了証を交付致します。また修了者の皆様にはマッチングコーディネーターとして登録をお願いしております。

主催：世田谷区、社会福祉法人世田谷ボランティア協会
共催：学校法人 国士舘
協力：社会福祉法人世田谷区社会福祉協議会、せたがや防災NPOアクション



写真上) マッチングコーディネーター養成講座 (2015年～2017年)
写真左) 活動の手引き (2016年作成)



豪雨による被害のあった栃木県へボランティアの派遣 (2015年)



世田谷区合同訓練でマッチングセンターの模擬訓練を実施 (2016年)

全国とのつながり

せたがや災害ボランティアセンターでは、これまで中越地震や東日本大震災などでも被災地支援活動、街頭募金活動、寄付金集め、専門ボランティアの募集・登録、専門ボランティアの派遣、ボランティアバスの運行などの活動を行いました。

大規模災害が各地で起きている昨今、全国で防災・減災に関する取り組みや訓練が盛んになっています。静岡県ボランティア協会では、県内外の関係機関・ボランティアの参加のもとに、静岡県の図上訓練を行っています。東京都災害ボランティアセンターでは、首都直下地震の発災を想定し、被災地外から自治体職員への派遣や災害ボランティアによる支援なども考慮した訓練も行われています。発災時、自治体の枠を超えての支援は不可欠で、こうした訓練に、せたがや災害ボランティアセンターも積極的に参加し、全国の支援機関と交流しています。

せたがや災害ボランティアセンターの歩み

2004年 1月	世田谷区と協定を締結
10月	中越地震に専門ボランティア(介護職)を派遣
2005年 3月	「せたがや災害ボランティアセンター」を設置(常設)
2011年 3月	東日本大震災被災地へ専門ボランティアを派遣
7月	ボランティアバス開始(～2013年3月)
2013年 3月	世田谷区社会福祉協議会・世田谷区と三者協定を締結
2014年 10月	日本体育大学・世田谷区と協定を締結
11月	『避難所における困りごとと事例と解決のためのヒント集』を作成
2015年 10月	世田谷区にマッチングシステムを提言
11月	栃木県豪雨災害被災地へボランティアを派遣
2016年 7月	国土館大学・世田谷区と協定を締結 昭和女子大学・世田谷区と協定を締結
11月	世田谷区職員合同防災訓練 マッチングセンター模擬訓練
12月	『せたがや災害ボランティアセンター活動の手引』を作成
2017年 4月	世田谷区より『災害時ボランティア受け入れ整備事業』を受託
6月	マッチングコーディネーター養成講座開催(昭和女子大学) 日本女子体育大学・世田谷区と協定を締結
7月	日本大学商学部・世田谷区と協定を締結
9月	マッチングコーディネーター養成講座開催(国土館大学)



「下馬防災塾」で地域の方たちとまちの課題を整理(2016年)



都立高校の授業でプログラム提供。マンホールトイレの設置を訓練。(2012年～2017年)

いつかくる、その時のために

4月以降、広く区民や避難所運営を担う住民組織のみなさんに、災害時のボランティア受け入れ事業について理解していただくために、区内27か所のまちづくりセンターや、197か所の町会・自治会、91か所の小・中学校へ出向いて、説明する機会を得ることができました。「自助と共助と援助」についての講話や、災害ボランティアセンターの紹介とマッチングシステムのPRを行ってききました。地域に出かけていく中で、少しずつ理解が広まり、様々な出会いが生まれてきています。これからは各避難所運営訓練とタイアップしてのプログラム展開が求められているところですが。

「せたがや災害ボランティアセンター」では、「いつかくる、その時のために」を合言葉に、市民の力を結集して、いざと言う時に、いち早く復興の扉を開けられるように準備しています。